

神奈川私学保連 NEWS

Vol.98
2019.10.1

神奈川県
私学保護者会
連合会



会長就任にあたって

神奈川県私学保護者会連合会 会長 鴨下 博厚

(洗足学園中学高等学校 洗足会顧問)

昨年度、本会会長をお務めくださった佐藤昭様が、本年2月14日にご逝去されました。総会までの3カ月間は副会長3名で会務を代行しておりましたが、5月23日の総会でご承認をいただき、本年度より会長を務めることとなりました。

佐藤前会長は平成7年に本会に出向され、以降の3年間は理事、平成10年から26年までの17年間は副会長、平成27年から30年までの4年間は会長を務められました。また関東地区私学保護者会連絡協議会では、平成29年度に副会長、30年度に会長に就任、平成30年度には日本私学保護者会連合会の副会長も務められるなど、24年もの長い期間、私学保護者会連合会の活動に尽力されました。

佐藤前会長はいつも細やかな気配りをされる方で、我々のような入会歴の浅い役員にも常に優しく接してくださいました。また、上記のような長期間に渡ってこの会の活動にご尽力されたことは、神奈川県私立学校に通う子どもたちへの深い愛情によるものであったと感じております。6年足らずのお付き合いではありましたが、佐藤前会長の志をしっかり受け継ぎ、この会の活動を着実に進めて行くことが、私の会長としての役割と考えております。保護者会連合会加盟校の皆様には、引き続き当会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

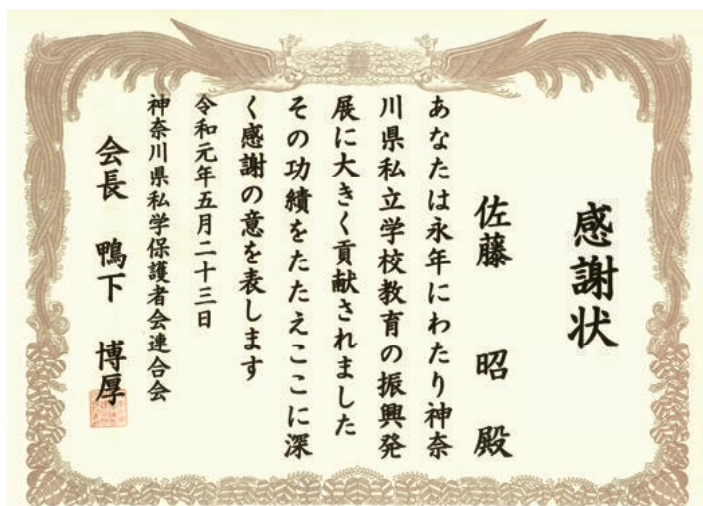
さて、会長に就任するにあたり、この会の活動目的や意義などについて、私なりに改めて考えました。私立学校はそれぞれが建学の精神に基づいた教育方針を掲げ、特色ある教育を行っています。その結果、卒業生は個性豊かで有為な人材を多く輩出し、様々な分野で活躍しています。各学校の個性を理解し、そこで学びたいと願う子どもに対して、その環境を与えられることは、保護者の大いなる願いでもあります。その実現に向けて少しでも目的に近付いていけるように、丁寧に会務に取り組んでいきたいと考えております。

本年も11月13日(水)に私学振興全国大会がメルパルクTOKYOで、11月25日(月)に神奈川県私学振興大会がパシフィコ横浜で開催されます。それぞれ国や県に対し、一層の私学助成の充実を訴える貴重な機会となります。

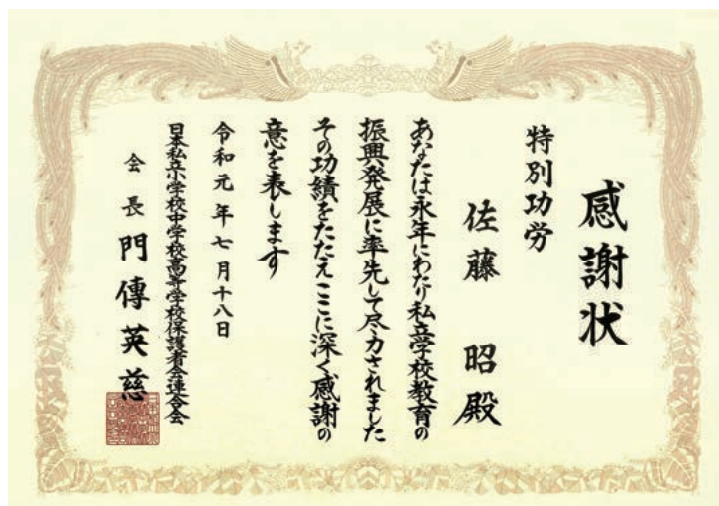
また研修事業としては、神奈川県内の施設等を視察する取り組みを10月に、講演会を12月に開催する予定です。

加盟校の皆様には改めて詳細をお知らせいたしますので、積極的なご参加をお願いいたします。

最後に、佐藤昭様の長年のご功勞に対し、日本私学保護者会連合会から令和元年度功労者表彰を受けました。本会からの感謝状と合わせ、ご遺族にお届けいたしましたことをご報告するとともに、衷心よりご冥福をお祈りいたします。



「神奈川県私学保護者会連合会」より



「日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会」より

2019年

定時総会の開催

「神奈川私学の発展のために」

今年度の定時総会は5月23日（木）に私学会館4階講堂で開催されました。神奈川私学（小・中・高）の保護者会連合会の加盟校87校中、出席校25校、委任状提出校58校で総会は成立いたしました。出席者は、各校から93名、現役員14名、来賓2名となりました。

今年度は鴨下博厚氏が新しく会長に就任し、就任のあいさつを行いました。次に来賓として、私立中学高等学校協会の工藤誠一理事長（聖光学院理事長・校長）から挨拶をいただきました。議長に原大蔵副会長が選出され、平成30年度事業・決算報告と2019年度事業計画・予算が提案され、すべて原案通りに承認されました。

次に、役員推薦委員会の深谷祥子委員長から5号議案の役員改選について提案があり、15名の役員が承認されました。今年度は加賀美博之氏（聖光学院中学校・高等学校 後援会理事）が新しく理事に就任されました。神奈川私学保護者会連合会の加盟校、会員の皆様には、これからも本連合会の諸事業のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



来賓あいさつ

「これからの私学の役割」

一般財団法人 神奈川県私立中学高等学校協会

理事長 工藤 誠一

（聖光学院中学校高等学校 理事長・校長）



ただいまご紹介にあずかりました私学協会理事長の工藤です。常日頃は神奈川私学に対して、絶大なる応援をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。次第で

す。神奈川県私立中学高等学校協会は、82校の学校で構成されております。その学校にそれぞれ保護者会がありまして、その保護者会が連合会を作っているわけです。

私学の場合は県より補助金をいただいております。そしてその補助金が学校運営にとって欠かすことのできない財源となっていることは言うまでもありません。経常費補助という形で各学校はいただいております。また、こうした経常費以外で授業料について学費補助という形で補助をいただいております。現在、年収590万円未満の世帯に対して、実質私学への授業料無償化になる（学費）補助が実現したわけです。経常費につきましては残念ながら全国の中で、中学校に關しては最下位、高校につきましてもあと一つしるに、1県か2県あるくらいです。これが神奈川県の実状であります。一方で多摩川をわたって東京へ行きますと、東京は全国一位の金額をいただいております。かなり格差があります。東京は地方交付税不交付団体でありますので、それだけ財政が豊かであります。そういう中で私学振興大会を毎年行ってきました。その甲

斐あつてか、少しずつ生徒一人当たりの補助金が毎年アップしてきている状況にあります。国から私学助成として生徒一人当たりには渡るであろう補助金額を財政措置額というのですが、経常費補助がそれと同じ額になるということが当面神奈川私学としての目標であります。そのために今年も11月にまた私学振興大会を行う予定でありますので、多くの皆様にご参集いただきたいと思います。

私立学校というのは保護者の皆様と公的補助の両輪があつて学校運営がなされていることを改めて強調させていただきたいと思っております。只今の状態で補助金、補助金と言っていると、お金を集める団体となりますので、やはり私学が組織する連合体として何をビジョンとして持っているか少しお話しします。

今年度、新しい中高協会の事業として不登校児のための支援センターを作ろうと考えています。幸いにして中高協会及びその保護者は横浜西口にこれだけのいい場所（建物）を持っています。午前中と昼間はほとんど使っていません。そこを活用して、私学へ通ったけれど何かのために不登校になってしまった、そういう子どもたちが、通える場所を作ろうと考えています。塾へ通い、模擬テストを受け、せっかく（私学へ）入ったけれど、不登校になってしまった。ひょんなきっかけから起こり得るものですね。そうした時に子どもたちが少し環境を変えて、こういうところに通って行く。そして元気になって元の学校へ行けるかもしれない。やはりそうした部分でいかにセーフティネットというものをつくるか、神奈川私学全体にとって大きな課題であると思っています。人材の「材」は財産の「財」です。かつてはいっぱい子どもがおり、中学校、高校とピラミッドの山に登り「打ち勝つ」ことが求められた。今は少子化であります。そんなに子どもたちはいない。やはり子どもたち一人ひとりが輝くステージを

作っていく。それが私学の役割であると思っています。すべての学校が違う建学の精神を持っています。ですからそれぞれが違う舞台なんですね。そしてその中の一人ひとりの生徒たちにも違う舞台を提供する。それがこれからの私学の役割だと私は考えています。

そういう観点にたって、この会館を拠点とした学校支援センター、不登校の子どもたちが通えるところを作りたいと思っています。皆さん自分の子どもが不登校になると思っていない。ところがある日突然そういったことが起こる。長いトンネルです。いつそのトンネルを抜けられるかわからない。骨折ならば、いっギブスがとれて歩けるようになるか予想がつきます。不登校はそうはいきません。お母様方は特に大変だと思っています。だいたい、そういう時にお父様方は「お前の育て方が悪い」というわけですね。「おやじ何やってるんだよ」と言いたくなることもあるんですが、そういう時に子どもたちのために、駅から近いこの会館を活用したいと考えています。制服は自由、しかも共学です。私学は男子校、女子校もあります。ここへ来たら女子がいるんです。私服でもいいのです。授業は午前中だけにします。午後からは自由で何かアクティビティーをする。もし必要があれば山にいく行事とか、いろいろな施設がある学校がありますから、それを活用しながらやっていく。そういうふうにしたら子どもはまた元気になるかもしれない。そういう夢を子どもたちに語り、それに対して保護者の皆様と共に進んでいければと考えています。すでに中高協会では今年度の事業計画に盛り込みました。それをどうやっていいか、今、一生懸命考えております。幸いにして中高協会は先生方の集団でありますから、リタイア組もいっぱいおります。リタイア組は懐が深い人が多いのでそういう人にお願ひするとか、または、これから先生になりたいという人たちにもボランティアでお願いするとか、いろんな方法があると思うのです。そういう形で私学に通ったならば最後まで面倒をみてくれるシエルター、支援センターを関東の中で先駆けて、わ

が神奈川の私学でやってみたいと思っています。

協会で大変なことは補助金をもらうことであります。自由な私学の教育を守ることでもあります。

もう一つ私たちが考えていなければいけないのは、私学に通う子どもたちが元気に毎日を送り、自分の未来に向かって突き進んでいく、羽ばたいていくその姿を絶えず心から応援し続けることだと思っています。

協会長六期目になりました。もう10年以上やります。学校ひとつではそういうことはできません。それぞれに学校の基準がありますから、なかなか子どもたちのしなやかさに対応できない部分もあります。学校基準などから離れた新たな基準で、その学校が「いいですよ」といえば進級できますし、卒業式もできるかもしれません。こっちの方が生徒が一杯集まったりして、それもまた困るわけですが、そういうふうにしたら夢があるじゃないですか。子どもたちに夢がなかったら、その国には夢がないんです。

子どもたちがいろんな形で夢を見られるように、私たち学校関係者とそれを支援していく皆様と力を合わせ前に向かって進んでいきたいと思っています。引き続き保護者会連合会の皆様の絶大なご協力とご指導、支援を賜りますよう中高協会を代表してあいさつとさせていただきます。ご静聴誠にありがとうございます。

新役員紹介

新理事 加賀美 博之

(聖光学院中学校・高等学校 後援会理事)



このたび、神奈川県私学保護者会連合会の理事となりました加賀美と申します。息子はまだ中一に入學したばかりで、私学保護者としては新米の私がこのよ

うな大役を仰せつかり大変恐縮しております。

聖光学院は、緑あふれる横浜山手地区の高台にあり、根岸森林公園に近接し、文教地区として適した教育環境にあります。数年前に新校舎となりました。校庭はすべて人工芝となり緑がよく映え、学校のシンボルである鐘楼は山手の街に時の音を知らせます。今年で62年目を迎え「紳士たれ！」が創立以来のモットーです。バイタリティあふれる工藤校長がとても印象的です。

聖光学院には生徒の知的好奇心を刺激するたくさん仕掛けがそろっています。例えば「聖光塾」。外部から様々な分野の講師を招いたり、釣りなど教職員が自分の趣味を講座にしたり、生徒は興味をもったものに自由に参加できます。学校では学べない様々な体験をすることで、生徒に多様性について学ばせ、新しい時代にも柔軟に対応できる生徒に育ててほしいと工藤校長は常々話されています。そのためならば「生徒を学校にしばらくつけない」そうです。

2019年8月23日(金)に栃木県宇都宮市で開催された関東地区代表者会に参加してきました。懇親会では他私学の保護者の方々と同席となり大変有意義な時間を過ごしました。理事となり、県内だけでなく全国の私学の方々と情報交換できることは大変光栄なことと感謝しております。

私学にはその学校それぞれの校風、いわば「個性」があります。裏を返せば「個性」があるからこそその私学だと思っています。そして、私学であればこそ、子どもたちの「個性」もより一層輝けると思っています。新しい令和の時代を担っていく子どもたちが、私学に通うことで、それぞれの「花」をより個性豊かに大きく咲かせることができますよう微力ながらお手伝いできればこれ以上の喜びはありません。どうぞよろしくお願ひいたします。

特別講演会

● 2019年5月23日

● 於 神奈川県私学会館4階講堂

「鎌倉文士の時代」

関東学院大学国際文化学部比較文化学科教授
鎌倉文学館館長

富岡 幸一郎氏

ご紹介いただきましたように関東学院大学で教えております。鎌倉文学館は昭和60年から開館しております。もともと加賀百万石・前田家の湘南鎌倉の別荘として昭和11年に建てられました。それを前田さんが鎌倉市に寄贈しまして、文学館としてやっていきます。大変すばらしい洋館、和洋折衷の建物です。すばらしい庭がございます。バラが今咲き誇っております。5月末から6月初めがちょうどいい時期です。是非お運びいただければと思います。鎌倉文学館は鎌倉ゆかりの文士の資料を収集、展示しております。今日は鎌倉文士のお話をさせていただきます。

鎌倉と縁がある文学者というと、250人くらいです。川端康成、小林秀雄、里見弴、大佛次郎、吉野秀雄とか大勢の方が鎌倉と縁があります。実は鎌倉生まれ、鎌倉育ちとして鎌倉で亡くなった文士というところはいないんです。唯一は源実朝です。ご存知のように大銀杏のところで公暁に暗殺されました。実朝は箱根に詣でたくらいでほとんど鎌倉をでておりません。まさに鎌倉生まれ鎌倉育ちです。そして大変すばらしい和歌の名士でした。実朝の歌に「もののふの矢並つくるふ籠手のうへに霰たばしる那須の篠原」があります。「那須」とありますが実は那須に行っていない。自分の想像の世界で歌を詠んでいた、そういう方です。

漱石は、明治27年に鎌倉の円覚寺に生まれました。まだ若い漱石、生き方に悩みがあったでしょう。その帰源院で座禅を組んでおります。それが「門」という作品になっています。自分の中で安心、安住を求めながらも、悩みや迷いや煩惱があって、それを小説に書き続けたわけです。その原点が北鎌倉にある円覚寺を訪れた体験であります。

芥川も鎌倉に住んでいたんです。横須賀の海軍機関学校で英語を教えながら東大でで小説を書きはじめました。漱石の本曜会を訪れた芥川が短編小説を書き出して、それを漱石が大変高く評価していました。芥川は大変喜び、「蜘蛛の糸」「羅生門」など初期作品を書きました。売れっ子になり、田端に移ってしまいます。もしあのまま鎌倉に住んでいれば、自分の人生は変わったと最晩年の芥川は語っています。

厳密に言うところの人たちが鎌倉文士かということちょっと違います。鎌倉文士と括られる人達は昭和に入ってからだと思います。具体的には、大佛次郎、川端康成、小林秀雄等です。昭和の初めに彼らは、強い思いがあって鎌倉に移ってきます。それは「文学界」という、いわゆる同人雑誌です。昭和8年「文学界」の創刊号を作った川端康成、小林秀雄、林房雄、深田

久弥。当時川端さんはプロの作家です。小林秀雄さんも商業誌に書いている評論家です。深田さんも林房雄さんもそうです。そういう人たちが何で学生のように同人雑誌をやるのか。それは、この「時代」なんです。昭和初年に世界恐慌が起こります。不況から戦争に入っていきます。昭和6年に満州事変、昭和12年日清事変・日中戦争、そして16年から太平洋戦争がはじまります。だんだんと自由な言論ができなくなってくる時代になってきます。「自分たちで、何とか言論の火を消さないようにしよう」「自由に書ける場所を作ろう」「検閲はあるがもっと集まってやろう」という彼らの思いが、同人雑誌の創刊につながりました。それぞれの思いを超えて集まったと思います。「文学界」を皮切りに「鎌倉カール」「そして「鎌倉ペンクラブ」を作っていきます。まさにこれが鎌倉文士の時代であります。昭和20年5月に鎌倉文士達が一つの事業を始めます。「鎌倉文庫」という貸本屋です。若宮大路の真中あたりに店を構えて、自分の蔵書を持って来てそれを市民に貸すんです。川端さん、高見順さんが店番やったりしているんですよ。文学者だけでなく、横山隆一さんなども参加しました。清水崑さんは絵を描いて応援したりして、鎌倉文士が店の中にいて貸本屋をやっているんですよ。昭和20年敗戦の年です。3月には東京大空襲、5月に世田谷の大空襲、それから横浜。そういう時期に「鎌倉文庫」を開店しています。大勢の鎌倉市民が、文士たちの持ち寄った本を借りて読む。久米正雄さんが「鎌倉文庫の記」でこんなふうに書いています。「空襲：絶望的になって、書物などを振り向きもしない」と案じていた。かえって人々は空襲の恐怖を書物の慰安によって追い払おうと。ここにも文化の必要性が恐ろしいほどはつきり見えてきます。非常に多くの人が、借りに来てくれました。本を読むことで、慰安、安心を得る、まさに文化の必要性だったのです。川端康成は「貸し本屋、貸し本店」という文章で「平和の時代と変わらぬ書物の溢れていた店は事実国内どこに一つしかなかったであろう。日本一親切な店、。事実、私共と読者の間には親しい心が潤い通っていた」と書いています。本当に文化の力を表わしていると思います。8月に戦争は終わります。もしあのまま戦争が終らなければ、おそらく鎌倉はやられていたでしょう。その後「鎌倉文庫」は出版社になり「人間」という雑誌を刊行し、戦後の文化復興、文芸復興に非常に関与しました。光明寺では鎌倉アカデミアという寺子屋を大きくしたものが作られました。

た。当時の鎌倉の学者が大勢集まって学問の復興をやりました。鎌倉の文士がそういう形で戦後の文化に非常に大きな貢献をしたということが言えると思います。

3人の文学者について少しお話をしてみたいと思います。大佛次郎さんは「鞍馬天狗」が大ヒットして一躍大スター作家になっていきます。昭和4年から亡くなるまで雪ノ下におりました。今も大佛さんのお宅が残っています。土曜、日曜はお茶が飲めます。もし行かれたら、少し高いですけど、見学料とお茶を飲んでいただければと思います。司馬遼太郎さん、ヒーローを作るヒーロー型小説ですが、大佛さんはヒーロー型小説じゃないんです。普通の人たちが時代を動かしていく。「歴史を動かしているのは、民の力である」これが大佛さんの歴史観です。「天皇の世紀」に見事に反映されます。

川端康成さん、文学館のすぐそばに家があります。非常にモダンな家です。西欧の新リアリズムに影響を受けています。文体は非常に新しく、実験的です。見事な日本語感覚です。「雪国」の文には行間にストーリーが入っている。「余白の芸術」「闇の芸術」。西洋の文学にはない言葉における「闇」。この行間を最大限に活用しました。素晴らしい作家だと思っています。よくかかれます。川端さんはなんで自殺したのか。わかりません。いろいろな疲れがあったと思います。ノーベル賞をとったあと大変忙しかった。「たんぽぽ」という作品を掲載していたのですが、途中で書けなくなりました。大変残念ですね。

最後は小林秀雄さんです。文芸評論家にとって神様です。日本の文芸批評を確立した人です。東慶寺にお墓があります。墓の後ろには桜が好きだったので枝垂れ桜があるはずですが、なかなか質素でいい墓です。

話はいろいろとびましたが、鎌倉は鎌倉文士によって支えられた時代があったと申し上げていいと思います。



「鎌倉文士の時代」の講演を聞いて

理事 稲葉夏美

(武相学園中学校高等学校PTA相談役)



今年度定時総会後、関東学院大学国際文化学部比較文化学科教授、鎌倉文学館館長、富岡幸一郎氏を迎え「鎌倉文士の時代」と題して講演が行われました。富岡先生が務める鎌倉文学館では、鎌倉ゆかりの文士の資料を収集展示されていることです。

鎌倉には250人くらいの文士がいたとのことですが、鎌倉生まれ鎌倉育ち鎌倉で亡くなった文士はいなかったようで、唯一、鎌倉生まれ鎌倉育ち鎌倉で亡くなったのは、源実朝だったとはびっくりです。また、そんなにも大勢の文士が鎌倉にいたとは、みなさん驚いていました。大勢いる文士の中から、夏目漱石、芥川龍之介、大佛次郎、川端康成、小林秀雄についての話を代表作、鎌倉ゆかりの作品のエピソードをまじえて和やかに話は進んでいきました。

漱石においては、若い時に生き方の悩みがあり、帰源院で座禅を組んでいて、その経験が「門」という作品に繋がっているということです。「門」では「主人公が自分には門に入れない。門の前に佇んでいる。自分はある悟りとか宗教による暗示、救いを求めようとしながらもその『門』の前に佇んでいる。」それが「門」のひとつの主題で漱石は自分の中で安心、安住を求め色々な悩みや迷い、煩惱があってそれを小説に書きあらわしています。「門」は漱石の大事な作品であり、その原点が北鎌倉にある円覚寺を訪れた体験が、もとになっている。想像だけではなく存在する場所をもとに小説が描かれていると思うと同じ時代を共有しているようで嬉しい感じでした。

今回講演を聞いて、もう一度文学にふれ、興味をもった小説を読んでから鎌倉散策をしたいと思ったかたは、多かったことでしょうか。ひと味ちがった鎌倉を発見できるのではないかと思います。

最後に、富岡先生が今後注目されている作家、作品を紹介していただき講演が終了いたしました。

私立学校への「経常費助成補助」の増額を求めて 9月6日 神奈川県庁新庁舎

梅沢裕之県議会議長へ請願・署名を提出

私立中学高等学校協会役員4名と私学保護者会連合会の役員3名が県庁を訪問し、私立学校の保護者負担の軽減と教育条件の維持向上に向けた、私学への「経常費助成補助」の増額等の要望を県議会議長に提出しました。

6月19日に全加盟校にお願いした「経常費助成補助」に関する署名は、全校の学校・法人・保護者代表から、249名が集まりました。県庁新庁舎の会議室において、中高協会の工藤誠一理事長と保護者会連合会の鴨下博厚会長が代表して、梅沢裕之（うめざわ ひろゆき）県議会議長に提出しました。

平成31年度の「私学振興費」の総額は、昨年度に比べ増額となっていますが、その内容は「私立高等学校等生徒学費補助」は制度変更にもない負担が軽減されたものの、「私立高等学校等就学支援事業費」と合わせた予算額は6.2%の減額となっています。「私立学校生徒学費緊急支援補助金」の減額や最も大事な私学経営の柱となる「経常費補助」は対前年度0.1%の微増となっており、私学への県費助成の増額を強く要望します。

神奈川県の私立高等学校等への生徒一人あたりの「経常費助成」は、高等学校、中学校、中等教育学校ともに国の財政措置である基準単価を大幅に割り込み、全国都道府県別に比較すると中学校が全国でワースト1位、高等学校がワースト4位という低い水準です。

神奈川県に学ぶ生徒たちが、保護者の経済状況に左右されず、より自由に学校選択ができる教育環境をつくるために、私学への助成は極めて重要なことと考えます。

これからも「経常費助成補助」のさらに増額を求める取組について、全加盟校のご協力をお願いします。



●2019年度 神奈川県私学保護者会連合会 役員

役職名	氏 名	所属団体名・役職名
会 長	鴨 下 博 厚	洗足学園中学校・高等学校 洗足会顧問
副 会 長	深 沼 昭 彦	横浜清風高等学校 横浜清風会会長 PTA 常任顧問
	原 大 蔵	聖光学院中学校・高等学校 後援会理事
	深 谷 祥 子	藤嶺学園藤沢中学校・高等学校 PTA 担当役員
理 事	赤 松 育 子	鎌倉学園中学校・高等学校 PTA 顧問
	稲 葉 夏 美	武相中学校・高等学校 PTA 相談役
	庄 司 由 紀	横浜富士見丘学園中等教育学校・中学校・高等学校 PTA 副会長
	瀧 野 弘 規	横浜雙葉学園 後援会執行委員
会計理事	加賀美 博 之	聖光学院中学校・高等学校 後援会理事
	吉 成 みち子	横須賀学院中学校・高等学校 教育賛助会会長
	浅 見 昌 宏	立花学園高等学校 PTA 参与
監 事	金 子 晃 久	英理女子学院高等学校 (旧 高木学園女子) PTA 顧問
	木 村 美 佐	鎌倉女学院中学校・高等学校 家庭会顧問
顧 問	市 川 昌 廣	横浜学園高等学校 後援会会長
	玉 園 篤 敏	平塚学園高等学校 父母の会会長



関東地区代表者会及び研修会参加報告

監事 金子晃久

(英理女子学院高等学校PTA顧問)



8月23日(金)令和元年度の関東地区保護者会連合会連絡協議会代表者会及び研修会栃木大会に参加いたしました。会場は宇都宮東武ホテルグランデ、そこに関東6県よりご来賓と各県の保護者会の方々118名が集う盛大な大会となりました。

代表者会の最大の目的は例年通り「公私間格差の是正」であり、それに対する連綿たる思いがご来賓挨拶や各県の活動報告の中に感じられました。保護者会連絡協議会の神山会長のご挨拶の中では、平成27年から30年まで、我が神奈川県保護者会連合会の会長及び、前年度の関東地区私学保護者会連絡協議会の会長を務めながら、本年2月にご逝去された佐藤前会長へのお悔やみの言葉をいただき、大きく大切な方を失った悲しみを新たにしました次第です。

研修会では「二宮金次郎にみるひとつくり〜わたしらしく、この子らしく〜」と題して、二宮金次郎の昆孫(七代目子孫)の中桐万里子様にご登壇にいただきました。二宮金次郎と言うと、学校の校庭に本を開きながら薪を背負った石像を思い浮かべる方が多いと思いますが、それは彼の幼少期の姿であり、成人した時には身長182cm、体重92kg、足のサイズは29cmだったとのこと、当時は周囲よりも頭ひとつ以上飛び抜けた大きな男だったそうです。金次郎は1787年に小田原で生まれ、1856年に日光で亡くなるまでの間に600以上の村を再建しました。



どのようにして多くの村を再建できたのか。まずはよく見て現実を知り覚悟をする。そして知恵と技術を使って工夫し行動し実践する。金次郎はその秘訣として「積小為大」という言葉を残しました。小さなことを積み重ねて行けば、やがては大きなものに為る。リアリストだった金次郎は、理想を語るのではなく、当たり前のことを言葉(声)にすることで周囲の人を動かしていました。

お話の中でも「報徳」という言葉は印象強いものでした。「頑張れば報われる」「幸せ目指して頑張る」「努力は必ず報われる」「幸せはゴール」と言う言葉をよく聞きますが、これは「見返り」を期待した考え方です。「報徳」の考えはこれとは逆で「頑張るだけではない」「幸せだから頑張る」「take & give」「幸せはスタート」というもので「恩返し」の思想なのです。

今の自分が幸せでいられるのは、過去の誰かの報いにより作られたもので成り立っている。そして自分が新たに考え工夫した何かを作り出し、次の世代へ恩返しする。このように未来へのループを繰り返してゆくことを「恩送り(おんくり)」と呼ぶそうです。

お話を聞き終わって、時間を惜しんで勉強をした努力の人という二宮金次郎への私の認識は大きく変化しました。どんなに辛いこと哀しいことがあっても、現実をよく見て受け止めて、覚悟を決めた後に、何か工夫できること改善できることを見つけ出して一歩踏み出す。それを繰り返して行けば、人生はもっと楽しいものになるのだらう。

この研修会に引き続き行われた懇親会では、皆さんが同じような気持ちになったのか、誰もが明るい笑顔に溢れていたように見えました。



日私学保連定時総会にて

副会長 深沼昭彦

(横浜清風高等学校横浜清風会会長 PTA常任顧問)



今回は、九州地区福岡にて、令和元年度定時総会が開催されました。今回、神奈川県は新会長体制になり初の全国大会でした。

総会にて、神奈川県故佐藤前会長への特別功労者として感謝状をいただきました。あらためて長年の献身、ご尽力、お疲れ様でしたと思うところがあります。

中高連吉田会長よりご祝辞をいただきました。その中で叱咤激励に感じる内容がありました。国からの財政措置額と実際の実行金額との間に開きをなくす、縮めるには各都道府県が声を上げ続けなければなりません。本当にその通りだと思います。神奈川県でも県議会議長へ中高協会役員の先生方と請願、振興大会など声を上げております。

総会の講演会で大宰府天満宮、瀬宜様より「神社のおはなし」の内容をご講演いただきました。神社のこと知っているようで知っていなかったことがわかる時間でした。

翌日、太宰府天満宮を、出席しました全国の保護者会代表者でお参り見学し帰路につきました。

最後に、平成後半から令和元年まで神奈川県副会長、日私学保連神奈川県代表者の一人として出席させていただきありがとうございました。



神奈川の全私学（中・高）140校が パシフィコ横浜・展示ホールに集合しました。

第20回神奈川全私学展

次世代をリードする伝統と創意
“全人教育は私学から”



主催／神奈川県私立中学高等学校協会

今年の入場者数は36,423人を数え、多くの方にご来場いただきました。ランドマーク付近までご来場の方の長い列ができるほどでした。展示ホールでの学校ごとのブースや各コーナー、2階アネックスホールでの企画に、ご来場の保護者や児童・生徒の皆様に関心を持って見学・参加していただきました。特設ステージでは39団体が趣向を凝らし、特徴を活かした内容で、発表を行いました。アネックスホールで開催された「保護者向け講演会」はとても関心が高く、多くの皆様が熱心に聴講されていました。また「パネルディスカッション」では4名のパネラーの校長先生が「私立中高一貫校の魅力と中学受験」について熱く語りました。今年度からの新たな企画「全参加校による5分間スピーチ」では各学校、5分という限られた時間の中で自校の特色を紹介していました。制服展、校章パネル展、部活動写真展は例年通りに開催され、制服展では139体の制服人体に今年も多くの方々が関心を持って見ていました。また校章パネル展には今年から校舎の写真が加えられ、より学校の雰囲気や伝わりやすい展示になりました。会場内には時々私学協会のキャラクター「神奈川うさ太郎君」が出現し来場者を沸かせていました。

開催日時…2019年7月15日（海の日）
時間…10時～16時
場 所…パシフィコ横浜CDホール
2階アネックスホール



保護者の願いを届けましょう！

神奈川県私立中学校・高等学校

振興大会

2019年度も「神奈川県私立中学校・高等学校振興大会」を、私立中学高等学校協会・私学保護者会連合会主催、私学保護者会交流会の共催で開催します。開催の趣旨は、神奈川県私立中学校、高等学校のより一層の振興を期して「神奈川県私学の決意と願い、及び努力を神奈川県民の皆さまにアピールする」ことを目的として、

- ① 改正教育基本法及び私学振興助成法の精神を十分に反映した私学振興策の着実なる実施
- ② 公私間の学費格差の是正や公私立学校の協調
- ③ 経常費補助（生徒一人当たりの単価）を国の財政措置額並みの増額等を行政関係者及び議会関係者に要請

ということです。

当日の招待者（予定）は、神奈川県知事の黒石祐治様、県私立学校審議会会長の牧島功様をはじめ来賓として国會議員、県會議員をお迎えする予定です。参加者は、加盟校の理事長・校長・教職員及び保護者会から各校10～15名程度をお願いし、約1000名の大会にしたいと考えております。

今年も多くの皆様のご参加を、

よろしく願います。

神奈川県私立中学校・高等学校 振興大会

実施日 2019年11月25日（月）

会場 パシフィコ横浜 会議センター メインホール

＜交通＞ JRまたは市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩12分
みなとみらい線「みなとみらい駅」より徒歩3分

時 程

- ・ 受付 14:20～15:00
- ・ 振興大会 15:00～16:40

2019年度主な行事への出席

- ◆ 4月29日（月・祝） 2019中学相談会 * 於パシフィコ横浜（鴨下会長、深沼副会長）
- ◆ 5月13日（月） 学校喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育推進協議会 * 於神奈川県総合医療会館（鴨下会長）
- ◆ 5月14日（火） 平成30年度会計監査 * 於私学会館（浅見・吉成理事、金子・深谷監事）
- ◆ 5月17日（金） かながわ地球環境保全推進会議総会 * 於産業貿易センタービル（木村監事）
- ◆ 5月23日（木） 2019年度定時総会・特別講演会 * 於私学会館
- ◆ 6月21日（金） 関東地区理事会 * 於宇都宮（鴨下会長、深沼副会長）
- ◆ 7月6日（土） 青少年の健全育成を進める県民大会 * 於茅ヶ崎市民文化会館（深谷副会長）
- ◆ 7月13日（土） 全国高等学校総合文化祭・佐賀大会派遣激励会 * 於横浜市西公会堂（鴨下会長）
- ◆ 7月15日（月・祝） 2019全私学展 * 於パシフィコ横浜（鴨下会長、稲葉理事、吉成理事、木村監事）
- ◆ 7月18日（木） 日私学保連総会・研修会 * 於福岡（鴨下会長、深沼副会長）
- ◆ 7月23日（火） 事務長会夏季研修会 * 於ホテル河鹿荘（深沼副会長、原副会長、深谷副会長）
- ◆ 8月21日（水） 理事長・校長研修会 * 於箱根湯本ホテル（鴨下会長、深谷副会長）
- ◆ 8月23日（金） 関東地区私学保連総会・研修会 * 於宇都宮（鴨下会長、他役員9名）
- ◆ 9月6日（金） 県議会議長への請願 * 於県庁新庁舎（鴨下会長、深沼副会長、深谷副会長）
- ◆ 10月17日（木） **これから行事予定**
保護者会連合会・交流会「研修事業Ⅰ」
「日本民家園、藤子・F・不二雄ミュージアム、三菱みなとみらい技術館」見学研修
- ◆ 11月13日（水） 私学振興全国大会 * 於東京・メルパルクホール
- ◆ 11月25日（月） 神奈川県私立中学校・高等学校振興大会 * 於パシフィコ横浜会議センターメインホール
- ◆ 10月31日（木） 青少年健全育成研修会 * 於出雲市

神奈川県私立中学高等学校案内 ホームページ

<http://www.phsk.or.jp>

● 内容 学校情報・入試情報・学費補助

■ 発行者 『神奈川県私学保護者会連合会』 〒221-0833 横浜市神奈川区高島台7番地5 神奈川県私学会館内 ☎045(321)1901
■ 印刷所 『有限会社 イソノ』 〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-10-4 ☎045(753)2549